

の中には、印刷された陀羅尼經が入っております。この印刷は、日本獨特の技術であろうと考える人もありますが、近頃、西域地方や敦煌などからいろいろとこの頃の文獻が出土いたしましたところによりますと、やはりこの種の印刷術も日本で發明されたものではなく、唐のそれを模倣したものと考えねばならぬようになりました。また佛教について見ますと、奈良朝では、佛教は申すまでもなく益々盛んになつて來ております。そうして、先きほど申しましたように地方に國學を置いた學校制度に對應して、各國に國分寺を置き、それに寺田を附けてその寺が立ち行くようにされました。これもやはり唐の制度によつたのにすぎません。また東大寺の大佛であります。これは發願された聖武天皇の時にでき上らず、孝謙天皇の時に開眼されましたが、この大佛の建立も日本獨特のものではなくて、彼地で行われておつたことの模倣に外ならぬのであります。さらに、經濟生活の方面を見ても、諸方に市場を作り、日時を定めて商賣することに定められ、また金銀銅の貨幣も鑄造されましたが、金の貨幣は殆ど行われず、銅で鑄造された和銅開珍が僅かに行われました。これら市場の制とか、貨幣の鑄造なども勿論また唐のそれに倣つたものであります。藝術の方面について考えて見ますと、奈良朝時代になると、佛像にいたしましても、飛鳥時代の生硬な感じの域を脱して、姿體の表現が自然となり、技術の發達を示しております。例えば、東大寺の法華堂に残つてゐる奈良朝の諸佛であるとか、同じく東大寺の戒壇院にある四天王の像とか、また唐招提寺の佛像とかを御覽になればよくおわかりになることでもあります。繪畫にしましても、藥師寺の吉祥天とか、正倉院の樹下美人圖とか、或は過去現在因果經などの如く、法隆寺に残る飛鳥時代の繪畫と比較して見ますと、その發展の有様をよく觀取することが出來、工藝品についても正倉院に残つてゐるような精巧無比なものが作